

産後1ヵ月の母親の新生児に対する不安・ディストレスの特徴

山内 弘子 高間 静子

要 旨：本研究は産後1ヵ月の母親の新生児に対する不安・ディストレスの特徴を質的記述的方法で明らかにすることを目的とした。対象は新生児の1ヵ月検診に来た母親19名であった。その結果、新生児の夜泣きによる母親のディストレス、新生児の夜泣き解決方法、新生児が泣くことで長子が起きること、新生児の湿疹の苦痛、新生児の体重増減、新生児の排泄状態に対する対処方法等に関連した不安の6項目が明らかになった。

【Key words】 産後1ヵ月、新生児、ディストレス

緒 言

育児上のトラブルは育児に慣れないことから生じることが多い。育児が最も困難な時期は出生した産科施設から退院した直後である。特に初産婦にとって、産後1ヵ月前後は、新生児の育児は未知の経験であり、育児に対する知識不足から生じる不安、さらに、新たに獲得しなければならない育児技術が多々ありディストレスが大きい時期でもある。

目 的

本研究では、生後一か月の新生児もつ母親が、新生児の育児上の不安の特徴を明らかにすることを目的とした。

方 法

1. 対 象

A市内のB産婦人科クリニックで1ヵ月健診に来た母親30名。

2. 調査内容・方法

新生児の1ヵ月検診に来た母親に面接し、アンケート調査に承諾が得られた母親にアンケート用紙を渡し後日郵送で返送してもらう方法をとった。調査内容は、母親が1ヵ月の新生児の育児上の不安となっている。

新生児の体重、皮膚の状態、泣くこと、排泄、その他について調査した。その不安内容のうち、同質と判断できる不安になっていることをグループ化し、そのグループの性質を最も表現できる名前を与え気がかりの概念とした。

3. 倫理的配慮

調査の主旨を説明し、記述した情報は全て口外せず秘密厳守すること、調査に同意できなくても、診療・看護上、不利益をこうむらない旨を説明した。なお、本研究は、研究協力施設長の承諾を得て行った。

結 果

1. 対象者の属性

調査に同意が得られ褥婦30名で、回収率63%（19名）であった。初産婦7名（36.8%）、経産婦12名（63.2%）。平均年齢 31.1 ± 3.7 歳、最高39歳、最低24歳であった。児の平均出生体重は3108.7gであった。自然分娩16名（84.2%）、帝王切開3名（15.8%）であった。里帰り者13名（68.4%）であった。1ヵ月検診時の母乳確立者5名（26.3%）、母乳とミルクの混合者14名（73.7%）であった。職業別では主婦7名（36.8%）、正社員5名（26.3%）、パート4名（21.1%）、その他3名（15.8%）であった。

2. 調査内容

データ収集の結果、母親の不安・ディストレスと判断できるデータは48件あった。48のデータの中で同質と判断できるものをグループ化すると、6種類の性質の不安・ディストレスが得られた(表1)。その内訳をみると、①眠い、②寝不足になるのが辛い、③自分の睡眠がとれない、④眠たいときに眠れない、⑤夜中20分おきに泣かれたので眠れない、⑥自分の体が辛であった。これらは、『新生児の夜泣きによる母親のディストレス』と命名した。次に、①児が何をしても眠らない、②ミルクやオムツを換えても泣きやまない、③うまく眠れずに泣いてぐずることが多い、④泣く理由が分からない、⑤23～2時まで泣きつづけている等であった。これらは、『夜泣きの解決方法がない辛さ』と命名した。その他、①長子が起きそうになるであった。これらを『新生児が泣くことによる長子の覚醒に対するディストレス』と命名した。さらに、①湿疹がたくさんできた、②痒そうでかわいそう、③痒そう、④周囲から「かわいそう」と言われることに対する苦痛、⑤顔が傷だらけになった等があり、『新生児の湿疹の苦痛に対するディストレス』と命名した。つぎに、①体重の増えが気になった、②適切な体重増加がわからない、③出生時の体重が小さかったので心配等がみられこれらを、『新生児の体重増減に対する不安』と命名した。さらに、①便秘、②便秘で母乳の飲みが悪い、③便が出ず吐乳した、④便秘で泣く、⑤頻回な少量の排便の対するオムツ交換、⑥オムツ変えのタイミングが難しい、⑦下痢等がみられ、『新生児の排泄状態についての対処方法に対する不安』と命名した。

母親のディストレスには、『新生児の夜泣きによる母親のディストレス』『夜泣きの解決方法がない辛さ』『新生児が泣くことによる長子の覚醒に対するディストレス』『新生児の湿疹の苦痛に対するディストレス』『新生児の体重増減に対する不安』『新生児の排泄状態についての対処方法に対する不安』の6つの特徴的なディストレスが抽出できた。

考 察

生後1ヶ月の新生児を持つ母親にとって、『新生児の夜泣きによる母親のディストレス』と『新生児の夜泣き解決方法がない辛さ』は、産後の疲労回復期にある母親にとっては外陰部の創部痛・不慣れからくる乳房の管理に時間がかかることや不慣れな新生児の育児の気疲れが重なり睡眠不足は体の疲労の回復を遅らせ辛い時期であり母親のストレスや不安は大きい。新津¹⁾は、「育児が最も不安だった時期は1ヵ月に一つのピークがあり、育児不安をもたらす要因には、①母親が子どもの欲求がわからない、①母親の具体的な心配ごとが多い、③母親に出産以前の子どもの接触経験や育児体験が不足している、④夫の育児への参加・協力が得られない、⑤近所に母親の話し相手がいない」等であると報告している。

新生児の『新生児が泣くことによる長子の覚醒に対する不安』は、第2子を出産した場合には、第2子の覚醒時の対応に加え、長子が覚醒する事で、母親の育児の困難と混乱を一層増強させるものと考ええる。

『新生児の湿疹の苦痛に対するディストレス』として、特に顔にできる湿疹は目立ち易く、周囲から指摘されると母親は責任を感じディストレスや不安におちいる。

さらに『新生児の体重増減に対する不安』は、体重が児の成長・発育を示す目安となる為、発育の遅れを生じるのではないかという不安からきているものと考ええる。

新生児の『新生児の排泄状態についての対処方法に対する不安』は、新生児は消化管が未熟である為便秘になりやすくその為、呼吸の障害、嘔吐の原因、哺乳量の低下を生じるのではないかという不安からきているものと考ええる。多田²⁾は、「新生児の排便・排尿の回数について、便は回数が多く、哺乳ごとに少量の水様の便を排出することが多く、臀部皮膚炎(おむつかぶれ)になりやすい。生後1ヵ月の頃になると排便機能が成熟し、哺乳時にも排便しなくなり、1日ないし数日に1回に排便となり、親が便秘を心配することが多い」また、「1ヵ月健診で臀部の発疹を認める例は多い。排尿回数が多いうえに、臀部の皮膚の清拭が十分でないための発症である。」さらに、「脂肪に分泌が多い生後1ヵ月前後は顔面に脂漏による分泌や面疱様の発疹などを認めることが多いので、沐浴方法や皮膚の清潔にも注意が必要である」と報告している

表1：産後1カ月の母親の新生児に対する不安・ディストレス (n=19)

具体的な不安・ディストレス	不安・ディストレス名
①眠い3件 ②寝不足になるのが辛い3件 ③自分の睡眠がとれない1件 ④眠たいときに眠れない1件 ⑤夜中20分おきに泣かれたので眠れない1件 ⑥自分の体が辛い時大変だった1件	新生児の夜泣きによる母親のディストレス 10件
①児が何をしても眠らない2件 ②ミルクやおムツを換えても泣きやまない2件 ③うまく眠れずに泣いてぐずることが多い1件 ④理由が分からない1件 ⑤夜型なのか23～2時までは起きていた1件	夜泣きの解決方法がない辛さ 7件
①長子が起きそうになる2件	新生児が泣くことによる長子の覚醒に対するディストレス
①湿疹がたくさんできた4件 ②痒そうでかわいそう3件 ③周囲から「かわいそう」と言われる2件 ④痒そう1件 ⑤顔が傷だらけになった1件	新生児の湿疹の苦痛に対するディストレス 11件
①体重の増えが気になった5件 ②適切な体重増加がわからない1件 ③出生時の体重が小さかったので心配だった1件	新生児の体重増減に対する不安 7件
①便秘5件 ②便秘で母乳の飲みが悪い1件 ③便が出ず吐乳した1件 ④便秘で泣いて困った1件 ⑤頻回な少量の排便に対するオムツ交換1件 ⑥オムツ変えのタイミングが難しい1件 ⑦下痢1件	新生児の排泄状態についての対処方法に対する不安 11件

結 論

産後1カ月の母親の新生児の保育上の不安とディストレスについて質的記述的研究方法で調べた結果、
 「新生児の夜泣きによる母親のディストレス」
 「夜泣きの解決方法がない辛さ」
 「新生児が泣くことによる長子の覚醒に対するディストレス」
 「新生児の湿疹の苦痛に対するディストレス」
 「新生児の体重増減に対する不安」
 「新生児の排泄状態についての対処方法に対する不安」
 等の6つの特徴的な不安・ディストレスが明らかになった。

研究結果の活用

これらの項目は、母親が1ヵ月検診前に自宅で気がかり（不安）としてきた項目であり、1ヵ月検診時には、母親の体調面の観察、新生児の観察項目の視点として活用できる。

文 献

- 新津直樹：私はこうしている新生児の1ヵ月検診。産婦人科治療 2006；92(6)：983-987.
- 多田裕：新生児育児上のトラブル解決法。産婦人科治療 2008；96：851-854.
- 伊藤恵子：周産期における母親に不安の程度と推移。母性看護 1993；第24回：15-17.
- 佐嶋洋子・宗真理子・嶋田清美：褥婦の悩みと対応に関する一考察—アンケートによる実態調査—。母性看護 1985；第16回：38-41.
- 出路直子・筒井詠子：育児不安のある母親との関わりから学ぶ育児支援のあり方。愛仁会医学研究誌 2010；41：130-131.
- 橋本美幸・江守陽子：産後12週までの母親の育児不安経験を目的とした指導内容の検討。小児保健研究 2010；69(2)：287-195.
- 菅野さゆり・曾根緑・伊藤景子：産後1ヵ月間の育児不安からみえた母親が求める退院時の育児指導の検討。日本農村医学会雑誌 2010；58(5)：607.
- 金子一史：育児不安および育児ストレスに関する最近の研究動向。周産期医学 2008；38(5)：591-595.
- 鈴木みゆき：育児不安と母子の睡眠。2008；40(1)：75-77.
- 桑原勲：当院出生児のフォローアップと育児不安への対応。近畿新生児研究会会誌 2007；(6)：31-35.